

## 2023年度決算報告

学校法人京都橘学園の2023年度決算は、2024年5月27日の理事会及び評議員会で承認されました。

経常的な収入である教育活動収入、および教育活動外収入は、前年度と比較して8億3,245万円の増加となりました。収入の大部分は、大学・中高・こども園の学生生徒等納付金で、経常収入の79.0%を占め、特に大学の新学部設置に伴う収容定員の変更等による在籍者数増加の影響が大きく、学園全体として前年度比較で107.9%となっています。入学検定料が大半を占める手数料収入では、入学志願者数減により、前年度比較で86.3%となりました。寄付金収入では、2022年度は学園創立120周年記念の年であり多くのご支援をいただいたため、前年度比較で90.9%と減額となりました。国及び京都府等から交付される補助金の事業活動収入に占める割合は16.9%で、2020年度から開始された修学支援新制度が含まれる経常費・運営費補助金は前年度対比で107.8%と増額になりました。また、こども園の補助金である施設型給付費は前年比104.7%と概ね変わらない結果となりました。

支出面では、経常的な支出である教育活動支出、および教育活動外支出が前年度より5億1,766万円増加しました。人件費では、前年度比較で104.8%、教育研究経費では前年度比較で106.6%の2億6,654万円増額、管理経費では、前年度比較で100.3%の3,285万円増額となりました。

2021年度に設置した3学部の学生生徒等納付金が順調に計上されるなどにより、前年度差額比率が12.7%から上がり13.4%となりました。教育研究活動以外の特別収支を加算した基本金組入前当年度収支差額では17億2,398万円を計上しております。

基本金組入については、第1号基本金において、大学でiCS研究デザインスタジオの建設、図書館書庫棟建設、新棟建設の為の用地購入などを実施、中学校・高等学校で施設改修による組入れを行い、組入総額合計7億7,478万円となりました。第3号基本金では、奨学基金への寄付に伴って増額となっております。これにより、2023年度は9億4,920万円の収入超過となり、繰越支出超過額は4億7,693万円となりました。

本学園では、2019年から始まった第2次マスタープラン計画を点検・評価し、2023年度から第3次マスタープランをスタートさせました。2023年度はこのマスタープランをもとに、大学において、2024年度の情報学研究科開設を計画し、iCS研究デザインスタジオを建設。収容定員拡大を計画し、新棟建設に向けた用地取得や設計を実施しました。

私立学園を取り巻く状況は、令和4年度版今日の私学財政(日本私学振興・共済事業団)によると、経営状況を示す事業活動収支差額比率は平均4.6%(令和4年度)となっております。本学園の事業活動収支差額比率は13.4%となっており、全国の大学法人平均より高い水準を保っております。現状においては、依然安定かつ健全な経営状態であると考えております。